

(7) 39回生2年 GCC(グローバル・コミュニケーション・コース)の取組

1 ディベート講義(2年)

(1) 日時 第1回 令和6年10月23日(水) 10:40~12:30(第3・4校時)

第2回 令和6年12月20日(金) 10:40~12:30(第3・4校時)

(2) 講師 株式会社ヒューマン・ブレイン国際事業本部 横山悠規氏

(3) 内容

【第1回】

- ・講義①「ディベートの流れ」
- ・講義②「議論が深まる質疑」
- ・アクティビティ①「質疑実践」
- ・講義③「効果的なアタック」
- ・アクティビティ②「アタック実践」
- ・ディスカッション、まとめ

【第2回】

- ・ディベート実践
- ・ディスカッション(各チームで振り返り)
- ・講師フィードバック、まとめ
- ・レクチャー、アクティビティ
- ・質疑応答、まとめ

本校2年生 GCC は、週2時間ディベートの授業を受けていた。その集大成として1月に実施された3校対抗英語ディベート大会にクラス全員が参加し、2月に実施された第18回兵庫県高校生英語ディベートコンテストに代表者6名が出場した。これらの大会に向け、よりディベートに対する知識を深め、実践力を磨くために外部講師の方を招き、講義を実施した。

生徒たちは、授業で学んで来たことを基盤に、より質の高いディスカッションやディベート実践が出来ていた。この講義を通して、あらためてディベートの難しさ、奥深さ、楽しさなどを体感することが出来ていたようだった。



2 イングリッシュセミナー

(1) 日時 令和7年3月3日(月) 場所 神戸大学 六甲第1キャンパス

(2) 内容

- ①「Kobe University Global Network Program Launch Symposium」に参加
- ②留学生とのディスカッション
- ③留学生と昼食
- ④シンポジウム参加者とのディスカッション
- ⑤神戸大学大学院 国際協力研究科 小川啓一 教授による講義
- ⑥キャンパスツアー&写真撮影

3 ウクライナ特別講義 テティアナ氏

〇7月16日(火)3・4校時

「紛争と健康について」

ウクライナの紛争下における子どものメンタルヘルスの現状についてお話を伺った。

〇11月21日(木)7校時

「ウクライナの年中行事について」

ウクライナの年中行事についてお話を伺った。また、ウクライナの高校生からのメッセージカードが届けられた。

〇12月24日(火)11:00~12:30

「ウクライナのクリスマス及び新年の過ごし方について」

日本とウクライナの新年とクリスマスの過ごし方について意見交換し、ウクライナの正月飾りを実際に作った。

(8) 39回生2年 SSC(サイエンス・サーベイ・コース)の取組

1 本年度の取り組み

- (1)サイエンス・サーベイ・コースに望まれるニーズを把握し、取り組みを改善しつつ、これまで継続してきた活動を、今年度より始まる STEAM 探究科に、繋げることができ形へと進化・発展させながら実施する。
- (2)本校の教育課程を基本としつつ、生徒の将来・進路を見据えて、コースに適した各教科の指導方法を模索し、生徒が進路実現できる学習指導に取り組む。
- (3)学校設定教科「自然科学探究」の評価方法について検討し、生徒の能力の適正な評価と、担当者による偏りのない評価基準で評価を行う。

2 1年間の取り組み ※ ①日時 ②場所 ③内容(項目)

(1) 第2学年の取り組み(自然科学探究Ⅱ)

ア 課題研究

- ①令和6年4月12日(金) ~ 令和7年2月7日(金)
- ②本校 理科各実験室・STEAM ルーム・HR教室

イ 課題研究成果発表会

- ①令和7年2月5日(水)
- ②アクリエひめじ
- ③1年間取り組んだ課題研究について、各班で成果発表しました。

以下の先生方に講評をいただきました。

兵庫県立大学大学院 工学研究科 教授 原田 泰典 氏



研究内容 「プロフェッショナル食堂の流儀～食堂マーケティング×データサイエンス～」
「身近なものを使って植物を育ててみた～フンと音と植物と～」
「統計学的手法に基づく犯罪の解析」
「裏・大逆転オセロ」「階差数列の新しい解き方?!」
「時間の経過による、水酸化ナトリウムの電離度の変化」
「炎天下の自動車の窓ガラスが高温になるのはなぜか?」

ウ 第1回 科学特別講義

- ①令和6年7月17日(水)
- ②本校 セミナールーム
- ③「すごいぜ環境 DNA～コップ一杯の水から生物調査～」

講師 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 木谷 亮太 氏



エ 第2回 科学特別講義

- ①令和6年12月20日(金)
- ②本校 情報教室
- ③「探究活動の成否はプレゼンで決まる!～伝わる資料の作り方～」

講師 甲南大学フロンティアサイエンス学部 教授 藤井 敏司 氏



オ 第3回 科学特別講義

- ①令和7年3月3日(月)
- ②本校 セミナールーム
- ③「論理と数理パズルーパズルを通して数学を見る」

講師 大阪教育大学 教授 町頭 義朗 氏

(2) SSC関連行事

ア 科学の屋台村

- ①令和6年7月20日(土)、7月21日(日)
- ②姫路科学館
- ③「折り紙で作る不思議な図形」

イ 科学の祭典

- ①令和6年8月17日(土)、8月18日(日)
- ②兵庫県立大学姫路工学キャンパス
- ③「ダンゴムシってどんな生き物?」「ス〜っと進む小さなボート」

ウ 兵庫県立大学工学部一日体験入学

- ①令和6年12月11日(水)
- ②兵庫県立大学姫路工学キャンパス
- ③進学説明会・研究室見学・模擬講義

エ 小学校科学出前授業

- ①令和6年12月21日(水)
- ②姫路市立白鳥小学校
- ③「植物のつくりとはたらきを知ろう! ~葉脈しおりをつくろう~」

オ サイエンスフェア in 兵庫

- ①令和7年1月26日(日)
- ②神戸大学・兵庫県立大学・甲南大学・クリエイティブラボ神戸
- ③ポスター発表

「炎天下の自動車の窓ガラスが高温になるのはなぜか?」 「犯罪率とその原因に関する研究」



県立大一日体験入学



小学校科学出前授業



サイエンスフェア in 兵庫

3 成果

- (1)「自然科学に対する興味関心を高め、自ら探究する態度を養い、科学技術の未来に貢献する人材を育成する」目標の達成のため、上述のような科学特別講義、課題研究成果発表会等、多種多様な行事を実施することができた。また、地域の行事や小学校への出前授業に参加し、科学の楽しさ・有用性を子供たちに伝えることができた。
- (2)学校ホームページを通して、コースの多くのプログラムをSSC通信で報告・発信できた。

4 課題

- (1)今年度で昭和61年に設立された本コースの行事はすべて終了したが、地域との交流や校外での発表は引き継いでもらいたい。長年蓄積してきたコース運営の経験を、必要に応じて普通科や新設したSTEAM探究科の活動に合せて、発展的に融合させる。
- (2)SSC生徒の学力向上に向けて、学校全体の理解と支援を受け、進路実現に向けて生徒へ効果的に指導する体制を整える。
- (3)外部の発表会へ積極的に参加する姿勢を育成することで、課題研究の一層の充実を図る。

(9) 38回生3年「総合的な探究の時間」【1単位】

回	月	日	内容
1	4	11	2年時の探究活動を個人で振り返り、文章化し、まとめる①
2	4	18	2年時の探究活動を個人で振り返り、文章化し、まとめる②
3	4	25	2年時の探究活動を個人で振り返り、文章化し、まとめる③
4	5	2	2年時の探究活動を個人で振り返り、文章化し、まとめる④
5	5	9	3年時の探究活動を個人で振り返り、文章化し、まとめる⑤
6	5	16	3年時の探究活動を個人で振り返り、文章化し、まとめる⑥
7	5	30	要旨の作成①
8	6	6	要旨の作成②
9	6	20	グループに分かれて発表練習①
10	6	27	グループに分かれて発表練習②
11	7	10	1年生向け3年生探究発表会
12	9	5	進路探究①
13	9	12	進路探究②
14	9	26	興味のある記事調べ①
15	10	3	進路探究③
16	10	10	進路探究④
17	10	24	興味のある記事調べ②
18	10	31	進路探究⑤
19	11	7	進路探究⑥
20	11	14	進路探究⑦
21	11	21	進路探究⑧
22	11	28	進路探究⑨
23	1	16	進路探究⑩
24	1	23	進路探究⑪

38 回生 総合的な探究の時間

2024.4.11 / 4.18 / 4.25

昨年度の探究活動のまとめ

昨年度の1年間で行った「総合的な探究の時間」での探究活動のまとめを文章化していく活動を行いました。まず、探究推進部長から今年度の探究活動の流れについて話がありました。

その後、今までに自分自身が取り組んだ資格や各種検定の成績、課外活動などの活動をまとめました。次に、どのような探究活動を行い、そこで達成できたことやそこで得たことなど、自分にどのような力が身についたのかを考えていきました。



My Road map 生徒記述の一例)

総合的な探究の時間などを通して、達成したこと、そこで得たもの

(1) テーマ 「嘘と錯覚について」

(2) テーマ設定の理由

近年、インターネット上でデマやフェイクニュースをよく目にするようになったことや嘘を使った犯罪が世の中で増えてきていることなどを踏まえ、私は嘘に関する関心が高まっていたので、嘘について調べることに決めました。その後、嘘について調べていく中で、嘘と錯覚に密接な関係があることに気づき、嘘と錯覚の関係性やその活用法、具体的な例について、深く探究することに決めました。

(3) 1年間の探究活動の流れ

私は当初、嘘をつく理由や効果、その活用法などについて調べていました。それについて調べていく中で嘘と錯覚に密接な関係があることに気づき、錯覚についてより詳しく探究を行いました。まず初めに具体的な錯覚の例を調べ、それが起こる原因を調べました。私は、錯覚は視覚によるものしかないと考えていましたが、調べていく中で、味覚、嗅覚、触覚などを利用した錯覚もあるのだとわかりました。その後、私はかき氷のシロップを使って、味覚、視覚、嗅覚を利用した錯覚の実験を行い、実際に錯覚を体験するとともに、錯覚と身体の関係性について理解を深めることができました。

(4) 探究を通して、達成したこと、得たもの(身に付いた力など)、社会に対する提案などの考えたこと

私は総合的な探究の時間を通して、いろいろな能力を身に付けることができました。グループワークをして、一つの問題に取り組む際には、メンバーと意見交換をするためのコミュニケーション能力、周りの人と協力するための協調性を身に付けることができました。また、答えのない問いについて考えることで、自主的に考え、行動する力や問題解決能力が身に付きました。そして、自分が調べ考えた内容をスライドにして人前で発表する際には、自分が伝えたい内容を要約し、聞いている人に納得させるための構成力、表現力が身に付きました。私はこの活動を通じて、錯覚には大きな可能性があると感じました。実際に錯覚を医療に利用したり、交通道路の標識などに活用したりしている例があるとわかったので、さらに活動が広まれば良いと思いました。

姫路飾西高校を卒業後の自分が学びたいこと、また大学で学んだことを人生でどう活かしていきたいか

私は姫路飾西高校を卒業後、大学に進学したいと考えています。まだどんな学問を学びたいのか、明確には決まっていますが、私は理屈で物事を考えるのが好きなので、そんな自分の性格に合った学問を見つけたいと思います。そして、大学卒業後は大学で学んだ知識を活用でき、自分の能力を活かすことができる職業に就きたいと思います。どのような職業に就きたいかはまだ決まっていますが、世の中の役に立つ仕事をしたいと思っています。

38 回生 総合的な探究の時間

2024.7.10

「探究活動とその先の学びについて」発表会

～学年を縦断して伝えたいこと～

38回生(3年生)が昨年実施した探究活動を1年生に向けて発表しました。3年生1名に対し、1年生5名に発表するスタイルで、どのような探究活動を行ってきたのか、また活動を通じて達成できたことや得たこと、感じたことをどのように将来に活かしていくのか等を発表し、質疑応答を積極的に行いました。3年生は各々がしっかりと成長した姿を後輩に見せることができ、1年生はこれからの高校生活を強くイメージすることができた時間になりました。

【1年生の感想】

山の土の保湿性は低く、崩れやすいことに驚いた。逃げ遅れたときに、山と反対側の部屋に逃げるといことが参考になった。ハザードマップもチェックしたり、家族で決まりを作ったりすることが大切だと思った。

ドジョウありとなしの対照実験で話がとても面白かった。田んぼや溝に小さな魚がいるのはよく見ることがあり、その魚もドジョウと同じよう効果をもたらすのか気になった。

「美しさ」についての話で自己肯定感につながるということに納得した。ファッションショーで「美しさ」を体験し、探究活動を通して人生や性格を前向きに考えられたということが印象的だった。



【1年生の感想】

錯覚が医療に使われていることを知らなかった。錯覚にはたくさん種類があり、その中の五感の錯覚というもので、視覚と嗅覚がなかったら味を感じることができないと聞いて驚いた。

紙、竹、プラスチックでの使用感のテストがおもしろいと思った。最近はお店でも紙ストローを使っていることが多く、長時間使っているとふやけることが気になっていたため、竹ストローの存在を知って、試してみたいと思った。

郷土愛あふれる方で、食べ物や建造物等、数々の姫路の魅力を楽しく発表されていた。人口が減っているのに高齢者の人口が増えていると知って驚いた。



(10) 遠隔操作ロボット「OriHime(オリヒメ)」の活用

株式会社オリイ研究所が販売している分身ロボット「OriHime」の活用法を考えるプロジェクトである『Orihimeji プロジェクト』に参加し、教育現場における「OriHime」の活用法を考えた。校内では、1年 STEAM 探究科の約20名と、2年の有志8名が参加し、1月下旬から2月中旬までの間で活用法を考え、企画し、実際に試してみた。

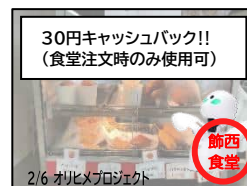
①1年 STEAM 探究科の実施案と使用してみた感想

【実施案】

食堂活性(利用者を増やす)の為に、オリヒメによるじゃんけん大会・クイズ・ゲームを実施し、割引券を配布。

【使用してみた感想】

可愛いフォルムなので、気軽に話しかけてくれ、手振りで意思表示もできる。みんなで盛り上がり活動できたし、食堂の利用者も多く参加してくれてよかった。大人数の場では、雑音が入るため、声が聞き取りにくいという難点もある。



食堂とオリヒメ



オリヒメ (in 先生) とクイズ



じゃんけん大会の様子



じゃんけん大会操作側

②2年有志の実施案と使用してみた感想

【実施案】

・オリヒメに向かって話をする、オリヒメに入って(操作して)話をする、さらに普通に会話をするなどと条件を変え、話しやすさを比較する。(新入生など、相談する相手などが少ない時に、相談者がオリヒメに入って話すが、一番話しやすいのではないかという結論を得た)

・寒い時期でも、実際に外に立たずに挨拶ができる利点があるため、挨拶運動を行う。

【使用してみた感想】

大勢の人の中で話がしにくい私も、自信を持って話しができる。

首がよく回るので視野が広い。(平面のオンラインミーティングなどより良い)

Wi-Fi 環境が弱くなると停止してしまう(強いポケット Wi-Fi が必要な)ため、接続がやや不安定。

音声割れて聞こえづらくなることもある。タイムラグがやや気になる。

目のライトの色の変化があれば、もう少し表現できることが増える。



面接練習



挨拶運動 (操作側)



探究発表会の受付

〈今後の展望〉

今回は、姫路市内にあるリハビリテーションセンターのご厚意により10日間程度お借りして、実験を行った。もう少し恒久的に扱えたら、欠席者の身代わりやカウンセリング等に利用したいと考えている。

38 回生 総合的な探究の時間

2024.9.26 / 10.24

興味のある記事調べ

3年生は自分の興味や進路に即した内容の報道の記事を探して、読み進め、自分の考えをまとめました。これから半年後には卒業して社会に出る生徒たちは、もっと世の中の情勢を知る必要があります。そのために新聞や論文が載っている雑誌を読んだり、報道各社のオンラインサイトなどを検索したりしていました。普段はあまり新聞などを読む習慣がない生徒たちもいろいろな記事を読んで楽しそうに取り組んでいました。



3年生は、2回目の記事調べを行いました。前回よりも自分の進路に結び付く内容で記事を選び、自分の進路が社会的にどのような状況にあるのかを考えをまとめました。

先生からのアドバイスで興味を持った内容をまとめる生徒やたくさん出されている新聞を読み込んで興味をもった記事を選んでいる生徒もいました。

3年生の中には18歳になり選挙権をもっている生徒もいます。記事で政治に関心をもった生徒は隅々まで週末の衆議院議員選挙の記事を読んでいました。



生徒記述の一例)「火星で液体の水を発見」BCC NEWS Japan より

2018年に火星に着陸した米航空宇宙局(NASA)の探査機「インサイト」は、着陸機に地震計が搭載されており、火星の奥深くから4年分の振動(火星の地震)を記録していた。そのデータを新たに分析したことによって、火星の地下10から20キロの深さに、液体の水が存在していることが明らかになった。

火星の両極には凍った水があり、大気中に蒸気があることや、太古の昔には川や湖が存在したことは、以前から証明されていたが、火星に液体の水が発見されたのは今回が初めてである。

昔から話されている、火星移住については、この水が発見のおかげで、より現実的なものになったといえる。とはいえ、地下10キロに埋まった水を、宇宙の限られた資源の中でくみ上げるのは容易ではないため、まだ課題は多いだろう。

生徒記述の一例)「新紙幣発行について」Yahoo news より

2024年7月3日に日本銀行が新紙幣を発行した。新しいデザインの発行は20年ぶりであり、目的は3Dホログラムによる偽造防止の強化やユニバーサルデザインの導入などが挙げられる。私は、旧札に思い入れがあるのかあまり新紙幣には慣れないため、少しばかり気持ち悪さがある。しかし、偽造対策は素晴らしいと思った。

ここで偽造対策について、私は一つ疑問に思ったことがある。「果たして、新紙幣の発行に意味はあったのか」と。理由は現代ではキャッシュレス決済が加速してきているからだ。日本は他国と比べてキャッシュレスの普及が遅い傾向にある。政治的観点から見ても、キャッシュレス決済の導入を推進するのは想像がつく。そうなると紙幣を使う機会が減る。わざわざ、新紙幣にお金をかけなくても良いのではないかと考えた。紙幣一つからでも政治について考えを膨らませられるのは、とても面白いものと思った。

2 成果の発表・普及

(1) 39回生7月探究発表会

39 回生 総合的な探究の時間

2024.7.17

7月探究発表会

1学期は、自分自身の興味関心のある分野を絞り込み、グループで活動してきました。今回の発表会では、大きなテーマやミニテーマの設定に至るまでのきっかけや内容、そしてどのような課題や問題点を見つけたか、また、今後の探究活動をどのように進めていきたいかを1年生や同級生に向けて発表し、評価をしました。

探究活動の手助けをしてくださるコンソーシアム委員の方にも発表を聞いてもらい、講評をしていただきました。夏休み期間に外部とコンタクトをとるなどして、2学期以降の活動につなげていく予定です。



(2) 39回生12月探究発表会

39 回生 総合的な探究の時間

2024.12.18

12月探究発表会

7月に実施した中間発表から得た評価や意見を受け、2学期は各班でアンケートを実施したり、実験をしたり、休日を活用して校外へフィールドワークに行ったりと、より深く探究活動をしてきました。

12月探究発表会では、1・2学期で進めてきた探究内容を同級生や1年生に向けて発表し、相互に評価をし合いました。



(3) 40回生12月探究発表会

40 回生 総合的な探究の時間

2024.12.3

グループ内探究発表会

10月からグループを決め、探究してきた内容を4～5グループに分かれて発表をしました。さまざまなテーマから自分たちで先行研究を調べたり、実験やフィールドワークの結果をまとめたりしていました。はじめての大人数の前での発表で緊張した様子でしたが、これからの探究活動や発表する機会にいかしていけるように頑張っていました。



2024.12.17

学年代表グループ探究発表会

12月3日のグループ別の探究発表会を経て、その中で代表に決定したグループが学年全体に発表を行いました。体育館で探究委員が司会進行を行い、生徒主体で運営していききました。発表者は自分たちの探究の成果を多くの人にわかりやすく伝えられるように努めていました。質疑もさまざまな視点から出てきて、これからの探究に繋がっていきたいと意気込んでいました。



(4) 探究成果発表会

日時:2月5日(水) 9:00~15:00 場所:アクリエひめじ(姫路コンベンションセンター) 中ホール、展示場 C

2学年(39回生)は、年度初めに全体でブレインストーミングを行い、その中で興味を持った分野を選択し、19のグループに分かれて、約1年間の探究活動を行った。中ホールでのプレゼン発表を3グループ、展示場でのプレゼン発表を4グループ、ポスター発表を9グループ、展示体験型発表を3グループが行った。1学年(40回生)は10月以降に41のグループに分かれて、主に社会課題とそれに関する解決法を考えることを行い、1学年の発表会で選ばれた3グループはプレゼン発表、15グループはポスター発表を行った。また1年のSTEAM探究科はSTEAM探究基礎や English with STEAMという授業の探究発表を、2年SSCは1年間かけて行った課題研究の発表を、2年GCCはディベートを、それぞれ中ホールで行った。



今年で探究成果発表会は2年目になるが、最後のSSCとGCCの2コースの生徒と、新しいSTEAM探究科の生徒、さらには普通科の生徒という、それぞれ異なった学習に取り組んでいる友人の発表を聞くことが新鮮で、興味深く聞いている生徒の姿が印象的であった。

〇2年普通科探究

授業の悩み改善	SBA計画~カメムシとさよなら~
勝利への近道	学力と意外な〇〇の関係
ポリコレってなんやねん	遺伝のトリセツ~What is 遺伝~
高校生でも行ける海外旅行ガイド~韓国編~	素肌ととのえる15分
南海トラフの真実 - 私たちにできること -	ランドセルは生き残れるのか?
肥満と健康	クラスの大きさと学力の関係性はあるのか
教育、学力と課題	幸福について
にほんごであそぼう	香りが心身に与える影響について
たべもの界限~食品ロス&ダイエットときどき起業~	水の謎
君たちはどうネットと向き合うか	

〇2年SSC 課題研究

食堂マーケティング×データサイエンス	階差数列の新解法 / 裏・大逆転オセロ
身近なものを使って植物を育ててみた	水酸化ナトリウムの電離度の変化
統計的手法に基づく犯罪の解析	自動車の窓ガラスの高温化

〇2年GCC

ディベート【日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。】

〇1年STEAM探究科

English with STEAMについて	シンガポール研修とSTEAMキャンプについて
紙管ミュージアム~知る・学ぶ・楽しむ~	子どものスポーツ離れをなくしたい!

〇1年普通科探究

3D プリンタを活用して日常を豊かにしよう		地域コミュニティを活性化させるために
マダニによる感染症の対策方法を考える		くせ毛を直して理想の髪型を手に入れよう
ポイ捨てによって環境に与えられる影響		外国人と南海トラフから生き残る～method～
涼しく過ごすための対策	子育てしやすい労働環境	英語力向上！
動物で日々の疲れを癒そう!!	MBTI に実用性はあるのか？	練習の効率化
農業×テクノロジー	Enjoy to the 勉強	救急車の適切利用
心理テストの信頼性	こどもの貧困	姫路再生

【生徒の感想】

(自身の分析として良かった点)

- ・しっかりと覚えて、冷静に、緊張しすぎずに発表できた。
- ・発表を聞いている人にも参加してもらえるように工夫できた。
- ・人の目を見て、ジェスチャーも入れながら発表でできた。
- ・相手に伝えるということを意識して話せた。
- ・質問に対して上手く答えることができた。
- ・聞き手とコミュニケーションを取りながら発表できた。
- ・探究で作ったものを見せながら発表できた。



(自身の分析として悪かった点)

- ・緊張して、手元の資料を見ながら発表してしまった。
- ・聞き手の反応をもっと見ておけばよかった。
- ・質問に対して上手く答えられなかった。
- ・時間内におさめることができなかった。
- ・暗記していたため、話すスピードが速くなってしまった。
- ・自分の発表担当以外の内容も覚えておけばよかった。
- ・もう少し感情を込めて発表すればよかった。
- ・ポインターを使ってスライドを強調するなど工夫すればよかった。



(他者の分析)

- ・質問に対して上手に回答できていて、すごいと思った。
- ・作成した実物を見せてもらえてわかりやすかった。
- ・問題と課題、改善案が繰り返されていてよかった。
- ・対照実験の様子を1つのスライドで示していて視覚的にわかりやすく、説得力があった。
- ・身近なことをテーマに実用的なものを発案していてよかった。
- ・聞き手が参加できる質問が発表の中に何回もあり聞きやすかった。



【1年間、総合的な探究の時間を実施してきた生徒のアンケート結果より】

Q1 1年間探究活動を実施してきてどうでしたか？

項目		①とても良かった	②まあまあ良かった	③あまり良くなかった	④良くなかった
2年	R6	62.1%	32.1%	4.3%	1.4%
	R5	40.2%	54.7%	3.4%	1.7%
1年	R6	40.1%	52.3%	6.1%	1.3%
	R5	50.5%	44.7%	4.2%	0.5%



Q2 探究活動を通じて得た力は何ですか？(複数回答可)

項目		2年	1年	項目		2年	1年
① 主体性	R6	41.4%	28.6%	⑦ プレゼンカ	R6	40.7%	47.6%
	R5	31.6%	31.6%		R5	47.9%	41.1%
② 課題発見力	R6	45.0%	42.2%	⑧ 思考力	R6	30.0%	28.6%
	R5	30.8%	48.9%		R5	34.2%	47.9%
③ 課題解決能力	R6	27.9%	21.1%	⑨ 未来を見据える力	R6	15.0%	7.5%
	R5	23.1%	30.5%		R5	11.1%	11.1%
④ 分析力	R6	36.4%	29.3%	⑩ 資料作成能力	R6	47.9%	45.6%
	R5	27.4%	32.1%		R5	53.0%	34.7%
⑤ 協調性	R6	52.9%	48.3%	⑪ 情報収集力	R6	42.9%	47.6%
	R5	41.0%	58.9%		R5	39.3%	46.3%
⑥ 行動力	R6	43.4%	18.4%				
	R5	23.9%	18.9%				

1年間の探究活動を実施してきて、良かったと回答した生徒は9割を超えている。「良くなかった」・「あまり良くなかった」と回答した生徒も、テーマ設定をしっかりすればよかった、自身の活動がもう少しできたのではないかなという前向きな意見であった。

生徒の感想では、クラスを越えてグループを作り、意見を出し合ったり、一緒に考えたりする探究活動は新鮮で、楽しめた様子だった。また、普段あまり考えに及ばなかったテーマを掘り下げたり、多方面から考えたりすることも、通常の学習活動とは異なり、協調性や課題発見力がついたと考える生徒が多かった。

発表に対しても、1年間で3回程度の機会があり、上手いかなかった箇所を改善することで発表のスキルも上げることができ、プレゼンカや資料作成能力がついたと回答する生徒も多かった。

(5) 校外発表

ア 令和6年度兵庫県高等学校探究活動研究会

日時:令和7年2月8日(土) 場所:神戸市立御影公会堂 主催:兵庫県教育委員会

○午前の部 基調講演「知恵と学びと生きること」

講師 高田短期大学 大野 照文 特任教授(元京都大学総合博物館館長)

○午後の部 ポスターセッション(発表質疑15分 各2回発表)

①「SBA 計画～カメムシとさよなら～」【Audience Award for the Poster 賞】

カメムシってクサイ!気持ち悪い!!と思っている方必見!私たちがカメムシの生態とカメムシを寄せつけない方法を楽しく紹介します。カメムシに悩まされる日々にサヨナラ。私たちと一緒にカメムシについて学んだら、逆にカメムシを好きになっちゃうかも?!

②「授業中に手軽に使える眼鏡の作成」

「メガネやコンタクトは着け心地が悪い。でも着けないと黒板の字が見えづらい!」と思ったことはありませんか?そこで、僕たちはポケットに入る簡易メガネを3Dプリンタで製作しました。この簡易メガネで、悩みがどう解決されるのでしょうか?



イ 令和6年度高専連携教育プログラム「自分の持ち味の活かし方を考える1日 KOKOKARA」

日時:令和7年3月9日(日) 場所:神戸電子専門学校

主催:公益社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会

内容:兵庫県における高等学校と専門学校が連携した教育プログラムとして、「これまでに解決できなかった社会課題を突破せよ!」をテーマに第2回HYOGO まちづくりアイデアコンテストがあった。そこで、選考されたテーマは、校種を越えた情報交換及び交流を目的としたキャリア形成イベント「KOKOKARA」で発表する。

○ポスターセッション

「学力と賢さの関係」～高校生が考える賢くなる作戦?～

私たち高校生がこれから生きていく未来は不確定なことが山積している。

この混沌とした現代社会を主体的に生き抜く力を獲得するために、誰しもが

「賢く」なりたいたいと考えている。「学力」と「賢さ」は同義か。「賢さ」は生まれ

もったものなのか。「賢さ」を手に入れるためにはどうすればいいのか。「賢く」

なったらどんな得があるのだろうか。それを突き止めるために、このテーマを設定した。



ウ 姫路グローバル高校生サミット&ポーランドフェア

日時:令和7年3月20日(祝・木) 場所:アクリエひめじ会議室 主催:姫路市

○ポスターセッション

「外国人と南海トラフから生き残る～method～」

姫路市にも姫路城などの観光スポットがあることから、多くの外国人観光客が訪れています。さらに姫路市には、多くの外国人が生活しており、特にベトナム人が多いことが分かっています。南海トラフ地震がここ数年の間に発生するのではないかとされており、もし災害が起こったときに、パニックに陥ることが予想されます。そこで私たちはそれを防ぐために、外国語での簡易的なハザードマップを作るなどの取り組みを行いました。姫路市にも多言語に対応したマップが用意されていますが、もう少し細かな詳しいものを、まずは学校周辺から作成し、近くの駅や施設に置いてもらいたいと考えています。また私たちは、外国人になりきって、外国人に伝わるように簡単な日本語や英語や韓国語などを用いて、理解するにはどうすればよいかというロールプレイも実行しました。その中で、易しい言葉を使ったり、ジェスチャーを大きくしたりして、できるだけ瞬時に避難を理解してもらうことが大切であると分かったため、今後はさらに範囲を広げての分かり易いマップ作りや、ジェスチャーの方法を提案していきたいと考えています。

(6) STEAM Day

日時: 令和6年7月27日(土) 9:00~12:00

内容: 姫路飾西高校の新しい学び(STEAM教育とは何か)を、中学生、保護者、中学校教員、地域の方などに説明をする目的で実施し、約290名の来校者に、授業や体験会を行った。

体験授業の内容

講座タイトル	STEAMに関する分野
Date Collection in English	Art & English
恋文を贈ろう	Art
ドローンを操作して STEAM の世界へ	Technology & Engineering
VR ゴーグルでジェットコース	Technology & Engineering
VR ゴーグルでまちがいさがし	Technology & Engineering
VR で世界を旅しよう	Technology & Art
やってみよう! ビジントレーニング	Technology & Sports
ひらめき☆Math	Mathematics
美しい数学の世界	Mathematics & Art
生態系を Art で見てみよう	Science & Engineering & Art
光学顕微鏡で小さな生物を観察しよう	Science
空気のでアルミ缶をつぶしてみよう	Science
手作りアメンボを浮かせてみよう	Science & Art
パラシュート空中浮遊選手権!	Science & Art
Lチカしてみよう	Engineering



来校者(中学生・保護者)アンケート結果【 】内は保護者

質問1 STEAM Day の参加により、STEAM 教育をどう思われましたか
 とても興味を持った・・・75.4%【77.1%】 昨年 60.0%【59.6%】
 少し興味を持った …24.6%【22.9%】 昨年 35.8%【26.9%】

質問2 STEAM Day は、進路を考える上で参考になりましたか
 とても参考になった・・・75.4%【85.3%】 昨年 70.0%【57.7%】
 少し参考になった …21.4%【11.8%】 昨年 26.7%【28.8%】

質問3 本校の STEAM 探究科に何を期待されますか(複数回答可)

①学力の向上	41.7%【31.4%】	昨年 31.9%【17.0%】
②進路希望の実現	30.2%【34.3%】	昨年 31.1%【28.3%】
③将来の目標を決める	51.2%【65.7%】	昨年 45.4%【62.3%】
④探究活動による思考力の向上	46.5%【71.4%】	昨年 36.1%【56.6%】
⑤海外とのつながり	23.3%【45.7%】	昨年 21.8%【24.5%】
⑥企業・大学とのつながり	28.0%【34.3%】	昨年 17.6%【24.5%】
⑦自己表現力・コミュニケーション能力の向上	37.2%【54.3%】	昨年 28.6%【49.1%】

【中学生感想】

- ・スタンプラリーを用いて様々な講座に行くという仕組みがよかった。
- ・考える楽しさ、学ぶ楽しさがあった。
- ・ドローンの操作や VR を体験できてよかった。
- ・たくさん講座があったが、時間が足りなかったため、もう少し時間を増やしてほしい。

【保護者感想】

- ・一つの学科にとらわれない、複合された内容が中学生の興味に合いそうだなと思った。
- ・高校生がみんな優しく親切だった。また、受けた講座はどれも自己で考えて結果を導くような講座でとても楽しそうだった。
- ・どの講座も分かりやすく楽しかった。高校生から積極性や、自主性を感じられ、中学生が興味を持って楽しんで受講できていると感じた。

(7) 秋季学校説明会

10月26日(土) 8:30~11:00 学校紹介・補習、施設見学

11:00~11:40 普通科志望生徒は、探究の授業体験

STEAM 探究科志望生徒は、STEAM の授業体験

○普通科探究授業体験の内容(基本的に高校生が授業を実施)

[全体:内容説明]

高校生になると、どの学校でも「総合的な探究の時間」が実施される。

姫路飾西高校では、興味関心をもとにグループを分け、**<問いを立てる>**ことから始める。

探究活動には、自由な発想が大切なので、間違いも無いし、答えも無い!!

緊張をせず、コミュニケーションをとることを楽しみながら、まず初めに、班の中で簡単な自己紹介を実施。

「好きなものとニックネーム」を言い、ニックネームを書き、胸に貼る。

[個人ワーク:形からモノへ]

机に置かれた模造紙の上にあるカード(○・△・□のいずれか1つが書かれている)がある。

まずは、個人でこの○・△・□で思い浮かぶモノを付箋1枚につき1つのモノを書かせる。

(平面的なものでも立体的なものでも構わない。少しでもその図形が入っていればよしとする。)

[グループワーク①:「問いを立てる」テーマの確定]

グループ全員と共有していき、同じ単語や一番多く出たキーワードを集める。

「単語(モノ)」が決まったら模造紙に、その単語を大きく書く。

書かれた単語に関して知っていることをみんなで相談しながら挙げていき、それを単語の下に書いていく。



[グループワーク②:「問いを立てる」本題の時間]

単語(モノ)に対して、さきほど考えたこと、既に知っていることとは異なり

もっとこんな機能があつたらいいなとか こうなれば便利になるのに

なぜこのような使い方をしているのだろうとか こうなれば誰々が喜んでくれるかも ということを考えさせる。

※高校生には自分たちが考えたものを例えとして話してみる。

世界の人々を幸せにするような壮大な内容は難しいので、あくまでも自分にできそうなことを考えさせる。

[各班の代表による発表]

[体験後の中学生と保護者の感想]

自分で問題を見つけて、解決を考える、ということに興味を持った。

探究活動は友達と協力してやるものだ、ということが分かった。

他校の中学生とグループで協力する体験がよかった。

探究授業を受けて初対面の子と議論している姿を見られてよかった。

在校生の対応を見て、数年後にはこんなにしっかりできるようになるのかなと期待しました。

生徒のみなさんの体験授業がすごくよかった!先生の指示待ちでなく自分たちで考え時間配分をして、中学生に優しく話しかけてくれていて、こんな学校で学んでほしいと思った。



○STEAM 探究科授業体験の内容(基本的に高校生が授業を実施)

English with STEAM の授業で学習した内容を、中学生が体験しやすいように落とし込んで、高校生が実施。さらに STEAM 探究科の活動についての座談会を行い、中学生からの質問を受ける。

[体験後の中学生と保護者の感想]

STEAM 探究科について、いろんなことがわかった。

高校生が授業をしてくれたことに驚いた。

真面目だけど明るい生徒さんが多い印象を持ちました。学校の雰囲気も良く感じました。

非常に勢いのある学校だと思い好印象を持ちました。生徒達も自分から工夫しようとする意気込みを感じることができ、生き生きとした姿を見ることができとても良かったです。

学校の自由さ、生徒一人一人の主体性も大切にしているのがよく見えました。



(2) 令和6年度探究活動スキルアップ教員研修会

○日時 令和6年12月10日(火)

○場所 兵庫県私学会館 2階 大会議室

○講師 京都産業大学教授/NPO 法人ハテナソン共創ラボ理事長 佐藤 賢一 氏
「問いを重ね、探究をデザインする」

○参加校 普通科新学科設置校または設置予定校(23校42名)

○内容 ワークショップを通じて生徒の立場で「問いみがき」を体験し、探究学習に必要な「プログラムデザイン」について実践的な指導法を学ぶ。

ワークショップ①:「はじめの問い」をつくる。(80分)

- ・「今あるハテナ」を紙に書いてグループ内で1分間共有し、3人と問いを重ねを繰り返す。
- ・QFT (Question Formulation Technique) を活用した「問い」の立て方を体験する。
- ・探究のスタート地点としての「はじめの問い」の意義を知る。

ワークショップ②:「問い」を磨き、探究学習をデザインする。(80分)

- ・問いを「動く問い」に磨き上げる方法を体験する。
- ・探究学習プログラムの設計手法を学ぶ。
- ・生徒の探究を促進する実践的なアプローチを習得する。

○詳細

ワークショップ① QFT という手法を用いて、問いの生成→改善→優先順位付けなどの実践

1. QFT のルールで問いを立てる

- ・どんな問いもすべて書き出す(テーマ:基本スキル到達度の折れ線グラフから問いを立てる。)
- ・批判や評価をしない(心理的な安全性を保ち、安心して問いを出す空間をつくる。反応をしない。)
- ・できるだけ多くの問いを出す(とにかくたくさん「問い」をつくり、「問い」を洗い出す。)
- ・文章を正確に記録する(1名が記録係となり、出てきた問いを正確に箇条書きで紙に書く。)

2. 問いの種類を見極める(問いの具体化)

- ・紙に書き出した問いを開いた問いと閉じた問いに分類する。
開いた問い…色々な観点があり、答えが多様にある。
閉じた問い…はい/いいえ で答えられるもの(明確に単語ではっきりと答えられる)
- ・「閉じた問い」を「開いた問い」へ、「開いた問い」を「閉じた問い」へ変える。
(質問の表現を変える。手に入りそうな情報を変える。)

3. 問いの評価基準を共有する

- ・「どの問いが探究のスタートに最適か?」どんな所に焦点を当てて問いを立てるか、優先順位を決定する。
- ・開いた問いと閉じた問いを行き来することで生徒の思いがどこにあるのかを探る。

4. 問いを共有する

- ・各グループが選んだ問いを全体で共有する。
- ・フィードバックを通じて、さらなる改善を議論する。

ワークショップ② 問いを「磨く」ステップを体験

3つの要素を入れて問いを磨く

- ①具体性:問いが曖昧ではなく、明確であること。
 - ②関連性:生徒や社会に関連し、関心を引き出すものであること。生徒の興味や生活に結びついている。
 - ③探究可能性:情報収集や調査が可能で、実現可能な範囲の問いであること。
- ➡3つの要素を基に改良し、少しずつ具体化していくと適切な問いになる。

例) 初期問い:「ゴミを減らすにはどうしたらいいか?」

具体化:「学校で出るゴミの量を減らすにはどうしたらいいか?」

関連性強化:「学校のゴミ削減にどのような役割を自分たちが果たせるか?」

探究可能性強化:「学校のゴミ削減のために実行可能なアイデアを3つ提案し、その効果を測定する方法とは?」

動く問いと静かな問いについて

静かな問い…主に答えが1つしかない問いを「静かな問い」といい、短時間で解決でき、探究の幅を広げにくい性質がある。基礎的な知識やスキルを確認するために有効。

例)「この教室の温度は何度か?」 答え:「22度」

動く問い…調査や実験を通じて複数の答えや新たな問いを生み出す問いを「動く問い」といい、答えを探す過程で新たな要因(湿度、明るさ、空調の有無)に探究活動の中で成長し、発展する特性がある。

例)「教室の温度が生徒の集中力にどう影響するのか?」

- ・生徒の興味を引き出すためには、「動く問い」と「静かな問い」を組み合わせる使うのが効果的である。
- ・動く問いを活用することで、生徒自身が「知りたい」という気持ちを原動力に学びを深めていける。

問いを分類して探究を深める

Bloom のタキソノミー(学習の深さ)に基づいて、分類される「問いの深さ」を参考にし、生徒のレベルや興味に応じて「記憶」や「理解」から始め、段階的に深い問いへ進むのが良いとされる。

①基礎的な問い(記憶、理解) 目的:基礎知識の確認、学びの土台を築く。

例)「光合成に必要な条件を挙げなさい。」

②応用的な問い(適用、分析) 目的:学んだ知識を実際の問題に適用する。

例)「光の強さが植物の成長に与える影響を調べなさい。」

③発展的な問い(評価、創造) 目的:深い思考や新しいアイデアを引き出す。

例)「都市型農業の理想的な植物栽培条件を設計しなさい。」

ワークショップで問いを作る際のヒント

・簡単な問いから始め、「なぜ?」や「どうして?」を付け加えて深める。

・問いを再構築する。

例)「東京の首都としての歴史を説明しなさい」→「東京が首都であり続ける理由を評価しなさい」

・共同的に問いを作る

○全体を通してまとめ

生徒から問いが生まれるためには、教員から生徒へ働きかけることが重要である。テーマによって「問い」は、出しやすい・出しにくいがあり、生徒の主体性を引き出し、学びを深める原動力になるような「良い問い」を探究のスタート地点にするためには、教員が生徒の興味・関心を語源化・可視化していくことが重要であり、生徒の行動や思考を促す。探究学習では、問いから答えを追い求める過程から得られるプロセスを大切に、生徒が自ら学びたいという意欲を引き出す。生徒の好奇心から、探究を始めると思考が深まり、答えを探す過程で多角的な視点を育む。探究のスタート地点としての「はじめの問い」の意義を深く学んだ。

(3) 浜松学芸高等学校

○日時 令和6年12月13日(金) 10:00~17:00

○場所 浜松学芸高等学校 食物室

○対象 地域創造コース1年生(男子5名 女子30名)

○内容 「おにぎりプロジェクト」

高校生が地元の食材を使い、オリジナルのおにぎりを提案、試作し、プレゼンと味で地元企業に売り込む。
興味をもった地元企業・スタートアップが採用し、販売へ繋げる。

例) もち豚×しらたき たくあん×お好み焼き エシャレット 舞茸 枝豆じゃこ 豚骨スープ 京せり

○他校 京都市立開建高校1年生男女10名

北九州市立高校1年生 男子6名

青森中央高校1年生 男女5名(ビデオ参加)

熊本県立必由館高校 1年生3名(見学のみ)

○内容 食物室で調理している様子、発表会での質の高いプレゼンの様子を見学した。

○担当者・参加校との討論

①ミスマッチを防ぐ

探究活動に取り組みたい生徒を獲得したい。「体験授業」を中学生に行う。入試では適性検査を行う。

②「心理的安全性」を高める

4月は徹底的に生徒同士のチームビルディングに力を入れる。グループ活動が成功しやすい。グループ決定は、「仲良しと共に」×「この指とまれ!方式」の方がうまくいく

③コンテスト一覧を作成

それぞれの特徴を把握しておく。生徒の特性・探究内容に応じてコンテストを勧める。

※日本政策金融公庫のビジネスプランコンテスト全国2位の生徒が出ている。彼らは授業の探究活動に加えて、部活動としても探究活動部として活動している。

④プレゼン・スライド作成の指導方法

先輩方のプレゼン・スライドを研究させることによって先輩から直接学ぶ。段ボールで被り物を作ってプレゼンするのは自然にできるようになる。ただ単に、原稿を読むプレゼンは1つもなかった。

⑤探究活動も仕分けが必要

学校全体で取り組む探究活動／コースで取り組む探究活動／部活動として取り組む探究活動

⑥授業担当者を巻き込む雰囲気

わからないからできない(探究の会議を週1回)。担当者が楽しくできないと生徒も取り組まない。教員がでける領域を少しずつ増やす。または教員の得意分野を集めてそれを生徒に提示すると担当者も活動しやすくなる。

⑦外部機関とのつながり

お互いにメリットがないと。オリジナルミニ四駆でタイムを上げる探究では「タミヤ」とコラボ。キッチンカーでビジネスを始める方と何気ない会話から。自校だけでなく、他校と交流できる拠点となる。



(4) 奈良市立一条高等学校

○日時 令和6年12月13日(金)

○視察内容 「探究の日」

12:30~12:35 校長挨拶・探究部による全体説明

12:35~12:45 「“探究”とは」講演 京都大学 学際融合教育研究推進センター 宮野公樹 准教授

12:45~13:00 学年ごと打ち合わせ・準備・移動

13:00~15:30 発表

○発表形式・内容

2年生が個人で興味のある分野でテーマを設定し、探究活動を行い、活動内容を模造紙1枚にまとめ、発表が行われた。普通科201名を分野ごとのグルーピングを基本に「4名×50」に分ける。発表(8分)、質疑応答(5分)、評価シート記入・移動(5分)で前半4名・後半4名を25教室に分かれて実施され、発表者以外の2年生と1年生が、興味のある内容の発表が行われる教室に移動し、発表を聞き評価する形式であった。評価シートは紙で教室においてあり、その場で記入し、発表者に渡すスタイルであった。校内には高1・高2の生徒のみなので、放送で生徒の動きを管理していた。

個人探究のため部活動・勉強・趣味・好きなものなど身近な内容をテーマに設定しており、自由度が高かった。

○学外探究チーム

学外探究チーム「コトゼミ」は5名のグループ探究で、年度当初に興味がある生徒で結成する。

日経 STEAM シンポジウム2024①『常識を疑え!高校生ポスターセッション』②『デジタルアート展示&発表会』へ参加。ポスターセッションアドバイザーは京都大学の宮野公樹准教授。

探究の授業を担当する教員は、各クラス担任と各クラス副担任で教員1人あたり20名程度を担当していた。水曜の午後の2時間が探究の授業で、校外学習にも出ていきやすい時間帯を設定してした。個人探究ではあるが、校外へ出るときは、ペアの生徒も一緒に行動していた。

○「“探究”とは」講演 京都大学 学際融合教育研究推進センター 宮野公樹 准教授

「探究の“構え”について」教科書も誰かの探究の結果である。その問いに意味があるのかは外のモノサシ。自分らしい、高校生らしい素朴な問いがよい。



(5) 福岡県立八幡高等学校

○日時 令和7年1月15日(水) 11:00~15:00 ○場所・対象 福岡県立八幡高等学校体育館・2年生

○視察内容 「夢現∞プロジェクト」

「地域や人々の抱える問題を解決するために、私たちにできること」について、2学年を中心として、主体的に探究し、アクションプランを考察するプロジェクト。

夢現∞プロジェクトのステージ発表(6班)、ポスター発表(19班)を見学。

①教諭でなく、コーディネーターがプロジェクトを運営している。

「夢現∞プロジェクト」はコーディネーターの真子さんと、総探リーダーの教諭の2名で主に回している。コーディネーターが年間計画・指導案の作成、資料作成、外部機関との連絡・発表会の調整などを行っている。

②先行研究が公開・引継ぎされている

これまでの研究内容をすべて後輩が冊子・データで見られるようになっており、参考にしたり、または研究の続きを行ったりすることができる。2年生から1年生への研究の引継ぎ会も行われている。

③積極的に地域企業・施設とコラボをする

積極的に地域の企業と協力して試作品を作成したり、取材したりしてデータを収集し、深い探究に結び付く。学校の食堂とコラボして、生ごみを減らす研究をしている班もあった。フィールドワークの日を5月10日に設定し、それ以外は土日や夏季休業中にフィールドワークを行った。

④積極的に商品開発に挑む

環境に優しいフロート・コンポスト・防災ボードゲームなどを企業コラボで開発している班があった。

地元のみならず、最終的には日本全体に貢献できるような研究を多くの班が行っていた。

⑤アクションプランを必ずたてる

「自分たちで実際に計画をたててやってみる」ことを必ず行うようにしていた。実際にやることで、結果や新たな課題が見えてくるのでよい。

⑥ステージ発表での工夫

全員が順番にしゃべっていくのではなく、演劇や、小道具などを用いて、効果的かつ興味がわくように発表が工夫されていた。8人班を基準とし、聞く人の立場を考えてプレゼンするように伝えているそうである。

⑦発表会では、地元企業や大学教授などの専門家を招く。

発表会での質疑応答で質問をしてもらったり、終わった後に座談会を設けて、意見をいただいたりすることで、今後の研究に活用することができる。発表会の採点にも加わっていた。

⑧班でテーマを決める

まず、個人で設定された大テーマから選び、その中でグループを作成して研究テーマを設定する。人数を確保でき、グループ全員で探究活動を主体的に取り組んでいた。

⑨勉強と両立するための工夫

提出物などの締め切り(スライド・ポスター)などの計画はリーダー会議を通して事前に知らせることで、計画をたてて、作成に取り組むことができるようにする。基本的には生徒主体で取り組ませて、教員が指示することなく、自分たちのペースで進めていく。



(6) 広島市立美鈴が丘高等学校

○日時 令和7年2月13日(木)

○視察内容

11:40~12:40 校長挨拶・教育研究部・第2学年より全体説明

13:25~14:15 総合的な探究の時間(1・2年生)授業見学

14:25~16:00 説明・質疑応答

○全体説明

令和7年度入学生から6クラス全てが「グローバル探究科」となる。来年度からチーム担任制やノーチャイムの導入を予定するなど、新たな取り組みが始まる。新入生用のカリキュラムには、探究の時間が1年2時間、2・3年4時間ずつ設けられ、3年生では7時間分の選択科目の中に「余白」の時間が含まれ、この科目を選択した生徒はこの時間で探究を深めたり、大学入試に向けて探究活動の内容をまとめたりするといった活動を行う。また、美鈴が丘高校の周辺には保育園、幼稚園、小学校、中学校が至近距離に位置しており、これらの教育機関と協力して探究を行ったり、地域の活性化や防災を課題とした探究を行ったりするなど、「グローバル」だけではなく、「ローカル」の部分を意識した探究活動を行っていることが大きな特徴である。

《第1学年の流れ》

- ・4月に「探究と調べ学習の違い」や、「課題の設定について」といったテーマで講演会を実施。
- ・2月の発表に向け、グループで探究活動を行っている。

◎授業見学

教育分野の「幼稚園児や小学校低学年にお金の使い方を知ってもらうには」というテーマの探究活動を見学した。生徒たちは、タブレットをレジに見立て、大きなサイズのお金や動画、静止画などを駆使し、どうすれば分かりやすく伝わるかについて意見を出し合っていた。近い内には、近隣の保育園と幼稚園でワークショップを開催するという具体的な目標があるためか、生徒活動も非常に活発であった。

《第2学年の流れ》

- ・4月~11月までは、昨年のグループ探究の続きや振り返り、さらにクラスごとに「修学旅行探究」を行う。
- ・12月から個人の探究活動を行い、2月に中間発表を行う。この個人の探究活動を3年1学期まで続ける。
- ・テーマの設定について

担当教員がテーマを1つ出す。生徒は自分の好きなテーマを選び、そのテーマについて探究したい内容について計画書をまとめ、そのテーマの担当教員に見せる。担当教員が内容に合格を出した場合は教員から印をもらえ、そのまま探究活動をスタートする。印をもらえなかった生徒は内容を見直すか、テーマを見直すなどして最終的に印をもらえたテーマで探究を行っていく。

◎授業見学

「なぜ人生は悪い方に進むのか」「プログラミング」「この学校が本当に避難所として活用できるのか」「美鈴が丘モールの活性化」など、内容は様々で、来週の中間発表に向けてのスライド作成や発表練習を行っていた。また、この日は2年生の半分の生徒がフィールドワークに出かけていた。行先はモールや防災センター、付近の山など様々だったが、フィールドワークは担当教員の引率はなく、生徒たちだけで活動していた。

《第3学年の流れ》

- ・7月までは2年生から行っている個人探究を行う。そのまとめとして、抄録をA41枚で作成し、PDF化してデータを保存し、次年度以降に引き継ぐ作業を行う。

○全体総括

コーディネーターの方は常勤で、民間企業で技術職に就かれていた方が担当されている。来年度以降はさらにコーディネーターを増やす予定である。2年生は1人の教員が15名ほどを担当するため、コーディネーターの方はもとより、校長先生や教頭先生も同じように探究の授業を担当していた。テーマが10個設定されている点は本校と同様だが、そのテーマで課題を設定し、教員に印をもらうために何度も試行錯誤を重ねる中で、課題の設定がより深まっているように感じた。また、生徒たちも全国の探究発表会の見学に出向いており、自分たちが持ち帰った情報を、生徒たちだけで運営する「未来会議」の中で共有し、探究活動や学校生活において生徒たち自ら様々な提案を行うなど、生徒主体の活動の機会を多く設けていた。

4 コーディネーターの活動内容

(○:校内実施 ●:校外実施)

活動日程	活動内容
4月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・1学期の探究活動計画について ○4月10日講演会「探究学習って?~「教えてもらう」から「学ぶ」へ~」(1学年対象) ○4月22日「STEAM の考え方」に対する授業(1学年 STEAM 探究科対象) ○探究活動の校外発表するためのコンテストの検索、選定 ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言
5月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・VR ゴーグル、ドローン、3D プリンタの体験について ○VR ゴーグル、ドローン、3D プリンタの体験会(1学年対象) ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言
6月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・第1回39回生7月探究発表会に向けて ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言 ●コーディネーター研修(オンライン研修)
7月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・第1回39回生7月探究発表会に向けて ・STEAM Day に向けて ○第1回39回生7月探究発表会 巡回 指導・助言 ○第1回コンソーシアム委員会 出席 ●コーディネーター研修(オンライン研修)
8月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・2学期の探究活動計画について ●コーディネーター研修(対面研修)8月8日(木)、9(金)東京
9月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・学校説明会での探究授業の実施について ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言 ●コーディネーター研修(オンライン研修)
10月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・学校説明会での探究授業の内容・準備について ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言
11月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・12月3日1学年グループ内探究発表会に向けて ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言 ●コーディネーター研修(オンライン研修)

12月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・12月17日40回生1学年代表グループ探究発表会に向けて ・12月18日第2回12月探究発表会に向けて ・遠隔操作ロボット「OriHime」について ○12月3日40回生グループ内探究発表会 巡回 指導・助言 ○12月17日40回生1学年代表グループ探究発表会 指導・助言 ○第2回39回生12月探究発表会発表会 巡回 指導・助言 ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言 ●コーディネーター研修(オンライン研修)
1月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・2月5日探究成果発表会に向けて ・高専連携教育プログラム 「第2回 HYOGO まちづくりアイデアコンテスト」応募に向けて ・3月9日令和6年度高専連携教育プログラム 「自分の持ち味の活かし方を考える1日 KOKOKARA」生徒発表に向けて ○1、2年「総合的な探究の時間」巡回 指導・助言
2月	○2月5日探究成果発表会(1、2年全員)巡回 指導・助言 ○第2回コンソーシアム委員会 出席 ○遠隔操作ロボット「OriHime」の活用 指導・助言 ●コーディネーター研修(対面研修)2月3日(月)東京
3月	○探究推進委員会との打ち合わせ ・令和6年度探究活動を振り返って、令和7年度探究活動計画等について ・令和7年度探究活動4月当初予定等について ○3月9日高専連携教育プログラム 「自分の持ち味の活かし方を考える1日 KOKOKARA」生徒発表開催 ⇒本校普通科2学年6名参加

5 コンソーシアム委員会・運営指導委員会

第1回 コンソーシアム委員会 議事録

●日時 令和6年7月17日(水) 11:30~12:40 於:姫路飾西高等学校 STEAM ルーム

●委員 兵庫ベンダ工業 本丸氏 NPO 法人スローソサエティ(米谷紙管) 米谷氏 神戸デジタル・ラボ 永吉氏
神戸電子専門学校 岡田氏 本校探究コーディネーター 前田氏
校内 校長 教頭 探究推進部(4名) STEAM 探究科運営委員長 探究推進委員(3名)

1 挨拶(校長)

・探究学習の状況 ・STEAM 探究科についての説明

2 本日の中間発表会(2年)における指導・助言

OA 氏

- ・中間発表であるため、調べ学習がメインになっていた。
- ・目的が見えないことでこの先に何を考えているのかが不鮮明である。
- ・タイトルにもう少し工夫が必要。中身との整合性がとれていないものもある。

OB 氏

- ・面白いと思える発表も増えてきている。
- ・発表の進め方はどのようになっているか、指導教官の有無は?
- ・自然災害、遺伝子、肥満の探究など、情報が正確でなく、ずれた話をしてしまっている。教員による軌道修正が必要。
- ・生徒からの質問が少ない。積極性をもってほしい。

OC 氏

- ・質問する力をつける。またその感性を磨くことで、発表側も聞く側も育つ。
- ・統計の班は、じゃんけんとコイントスという身近なところから進めるのは良いが、社会的なところの統計へと深く掘り下げることも必要。インターネットの情報だけでなく、本を読んだり、専門家などに会いに行ったりすることも必要。
- ・遺伝子の班は、竹内久美子氏の著書などを読んでみると新しい考え方が浮かぶのではないかな?

OD 氏

- ・プレゼンテーションにこだわりを(フォントの統一やページ番号、文献の引用を記すなど)
- ・プレゼンは原稿をセリフとして読むだけでない。指導を前段階である程度入れておく必要がある。しかしながら、人前で話せる力はあると感じた。
- ・グループ内は同じクラスではないものの連携はとれているように感じられた。
- ・余裕があればリハーサルをして、他の班に対して遠慮なく意見する環境を整えればなお良い。

OE 氏

- ・探究に関して成長しているのは実感できる。
- ・身近なところで教員が存在していると安心感がでる。
- ・他流試合をこなすと成長する。
- ・聞いている生徒へのアプローチを大切にすること。
- ・一歩先に自分がどうしたいのかが必要。フィードバックは大切で、それがより自分に浸透することになる。
- ・目の付け所を大切にしてほしい。

○2年探究担当者の目線から

- ・問いを立てることの難しさを感じている。まだまだ調べ学習にもなっていない班もある。知識の無い中でテーマを決めることもなかなか難しい。

○3年探究担当者の目線から

- ・小グループの中でのリハーサルを行うことで、質問能力も発表能力も上がる。定期的に発表する場を設けた方が良い。小さいグループだからこそ、丁寧に説明できていたと思う。

3 令和6年度探究活動について(探究推進部長)

- ・3年(38回生)は、My Road map と題し、探究活動等のまとめを文章で表現させた。その内容を1年(40回生)にグループとしてではなく、1人で説明を行った。自分の中で、探究してきたことを丁寧に伝えることができた。
- ・2年(39回生)は、実は120名中約半数が心理についての探究を行いたいと言ったため、再調査を行った。まだまだ調べ学習がメインであるため、指導していく。昨年度も夏休みに動けた班が、最終的に良い発表になったので、指示していきたい。

- ・1年(40回生)は、最新機器から新しい使用法を考えることやiPadの使用に慣れることをこの1学期の目標とした。夏休みに興味関心の課題を与えているため、その課題を踏まえて2学期を進めたい。

4 STEAM探究科の探究活動について(STEAM探究科運営委員長)

- ・入学時アンケートから読み取れることについて、
 - ①英語がやや弱いので、その力を伸ばして欲しい ②特にやりたいという意識は無いが、新しいものに触れたい
 - ③自分でやることは得意、協同はやや苦手、自己主張があまりないが従順である
 - ④社会に貢献したいと思うが、具体的なアイデアを持たない
- ・1学期は、報告書にあるように、English with STEAM では、他教科(社会)との授業や、STEM 教育に携わったことのある ALT による、食物連鎖を Art に落としこむ英語を使った授業、日独スポーツ少年団の受け入れ準備などを展開してきた。
- ・STEAM 探究基礎では、VR ゴーグルやドローンなどを他の生徒にも知ってもらうために、文化祭の出し物として面白く体験できる内容を考えたり、海外研修時の活動で使う日本のアピール点や姫路飾西高の紹介を考えたりした。

5 今後の活動計画について

○探究推進部長

- ・1年生は、夏課題を中心に、そこからグループ分けを行い探究活動開始。
- ・2年生は、もう少し自分事に落とし込む必要がある。夏のフィールドワークで考えが進むと良いが。
- ・3年生は、進路や大学推薦入試に繋げていければと考えている。

○STEAM探究科運営委員長

- ・とりあえず、この夏のシンガポール研修と STEAM キャンプに力を注ぎたい。夏課題としては普通科と同じ課題を与えているが、経験を多く積むことで、2年からの本格的な探究へとつなげたい。特にフィールドワークを強制的に行えるくらいのものになってほしい。
- ・2学期には、本丸氏と米谷氏にお話をいただき、企業や社会がもつ問題を考える探究活動を実施する。ご協力よろしくお願いします。

6 指導・助言

○A 氏

- ・STEAM キャンプで協力していきたい。特に「A」の部分の刺激になるようなものを用意します。

○B 氏

- ・シンガポールより、カンボジアをお勧めしたい。キリロム工科大学(プノンペンからは2~3時間)は環境が良い。リゾート地でもあり、日本人も多い。何より安価であり、日本人を好意的に受け入れてくれる。また検討してみてもいい。

○C 氏

- ・シンガポールに行くなら、IR施設の見学(ショッピング・コンベンション・カジノの複合は日本では見られない)と国立博物館(シンガポールの歴史や日本軍など)を訪れてほしい。

○D 氏

- ・今回、STEAMキャンプに協力するが、神戸COPLIの他企業も非常に興味をもっているため、見学等に来られる予定。さらにそのような企業と新たに繋ぐことも可能であるので、相談していただきたい。

○E 氏

- ・同世代の子どもたちが、どのような活動をし、どのような考え方をしているかを知るために外に出ていく。そうすることで、個人が変わり、周囲も変わってくる。そのために、教員や大人が背中を押してやる。その部分は学校がコーディネートする。また記者会見メソッドと言って、まだ成功していないが、あたかも成功したかのように、インタビューをし、それに返答することで、良いイメージを得ることができする方法もある。

7 学校長挨拶

- ・丁寧なご意見に対するお礼
- ・本校の探究について、マクロな視点ではある程度システム化ができたのではないかと。ミクロの視点では個々の中身の充実のために、教員が入りこみすぎず、発問して支えることを大切にしていきたい。また良い発表をできる個人をまずは増やすことで、全体の底上げを図っていきたい。
- ・今後のご協力の依頼

なお、コンソーシアム委員会は欠席されたが、兵庫県立大学環境人間学部教授の宇野氏には、39回生7月探究発表会を見ていただき、各班に対する丁寧なご助言をいただいた。

第2回 コンソーシアム委員会 兼 運営指導委員会 議事録

●日時 令和7年2月5日(水) 15:05~16:40 於:アクリエひめじ 特別会議室

●委員【コンソーシアム】兵庫ベンダ工業 本丸氏 NPO 法人スローソサエティ(米谷紙管) 米谷氏
神戸電子専門学校 岡田氏 本校探究コーディネーター 前田氏 橘氏
【運営指導】兵庫県立大 原田氏 大阪大谷大学 江上氏 県教育委員会 浅川指導主事
校内 校長 教頭 探究推進部(4名) STEAM 探究科運営委員長 探究推進委員(5名)

1 学校長挨拶

SSC(理系)の研究発表は元来行われていたが、特に普通科ではポテンシャルがあるにも関わらず、一昨年まで発表会などが行われていなかった。探究成果発表会は2年目になるが、校内視察も含め他県からの視察なども多くあり、生徒への刺激にもなった。学校として、本校の今の取り組みをもっとアピールしていく段階にきている。探究活動もさらにブラッシュアップをしていきたい。

2 指導・助言(探究成果発表会について)

OA 氏

・3年間でよく成長している。大学生にもひけを取らない内容のものがあつた。特に実験的な手法を用いたアプローチが一番向上している。

OB 氏

・プレゼン能力、スライドの作成スキルがかなり向上している。
・話し方も以前より良くなり、他校の発表会よりも出来がよかった。
・今後の展望が大切。生徒のゴール(将来の進路選択)を踏まえて学校側が方向性を考えられたらなお良い。その際に好きなことを見つけ、探究できれば、社会で通用する人材になると思うが、その探究活動について保護者がどう評価するか気になるところだ。

OC 氏

・探究活動や STEAM 教育の考え方が、先生方にも浸透してきているのではないかと感じる。
・3段階の考え方(仮説→検証実験→実践し社会とつながる)を大切にしてほしい。
・探究活動において、グループ毎にばらつきはある。上手いかなかったものほどフィードバックを大切にしてほしい。(構想仮説で終わってしまっているものは特に)

OD 氏

・企業等が参加することで、より詳しい探究活動になっている。先生方も尽力されている。
・1つのグループでも、2つのテーマ等を考えることで、コミュニケーション力は向上し、社会に出ても通用する考え方が得られる。

OE 氏

・限られた教育活動の中で頑張っているのではないかと感じる。
・中ホール発表の STEAM 探究科の2つの発表について、紙管ミュージアムやスポーツにおける VR のイベントなど、少しテーマが大きいように感じる。スライド発表の項目が多く、少し欲張りすぎているので、1つの事をもっと突き詰めた方がよい。
・アンケート結果をもう少し統計的に考える必要がある。今は数学・情報などで統計の学習も行っているのもっと詳しく考察できるのではないか。
・参考文献の書き方を統一させた方がよい。

OF 氏

・時代は変化している。これからは生徒の出していく社会を考えて教育活動を行う必要がある。そのためには教員の指導観を変えていく必要がある。そのことにより、生徒へのアドバイスの幅が広がる。
・『もの食う人びと』『指導者たちのユーモア』などの本を読むと、教員のアドバイスの幅が広がる。
・グループごとの仕上がりを生徒たちにどう受け止めさせるのか、教員のフォローがとても大切である。

OG 氏

- ・今回の発表会の会場が、モチベーションを上げる影響に繋がったと思うので、次回以降、さらには本事業の補助がなくなっても、続けられる環境を作れたら良いが、どうか。その他にも探究活動には費用がかかるものなので、その費用を工面できないと今後が厳しくなる。
- ・企業としても学校に入っていくのがこれからの社会であるので、さらに協力体制を整えていきやすくなるのではないかと。

3 令和6年度探究活動について（探究推進部長）

2年普通科探究では、7月・12月と中間発表を行い、その中で内容が良かったものを今回の発表会でのホール発表、次いで展示場でのスライド発表、ポスター発表というように、段階をつけての発表になった。

ホールでの発表では、担当教員の指導がやや熱心に入っていたため、自信のある発表になったのではないかと感じる。ポスター発表では、ポスターのスタイル等を統一させたが、なかなか上手く作れずに直しが多く入っていることや、発表の指導がまだまだ行き届いていないグループもあった。

1年普通科探究では、夏季休暇中に「自分が問題であると思うこと」という題でワークシートを完成させ、そこからグループ化することで、2学期以降の探究活動を実施したが、時間が十分ではなかったこともあり、探究活動としてはまだまだであった。

4 STEAM探究科の活動について（STEAM探究科運営委員長）

学校設定の「English with STEAM」では、他教科のコラボとして授業を行い、授業で学習し、考えた内容を発表するという活動に多く取り組んでいる。その中の1つが本日の発表であった。

「STEAM探究基礎」は、講義を聴いて実践を繰り返す学習がメインで、探究活動を固く捉えないために、夢物語（思い切った発想力）というネーミングで「You me × モノ語り」と題している。他には様々な企業や大学の方などからお話を伺い、自分で考えることに重点を置く、その道の本気の大人から話を伺うのでマジな目を知ろうという「マジ目」と題した講義等を設けている。

5 今後の活動計画について

【探究推進部長】

・新3年

3年夏までに、もう少し探究活動を実行できたらなお良い。それと並行して、高校での探究の取り組みをまとめたものを個人で仕上げる。さらに、高校生活の探究活動について、新入生に説明する。

・新2年

1年で考えた内容を継続するかしないかを考える時間（振り返り）を設ける。グループを一部再編して、本格的な探究活動を始める。

・新1年

「問い」を立てる部分の練習などを、もう少し細やかに行いたい。さらには聞く力をつけ、質問力を高めるような取り組みを入れたいと考えている。

【STEAM 探究科運営委員長】

・新2年

企業家に指導・助言を頂きながら、できることとできないことを判断していく。夢物語（You me × モノ語り）を夢で終わらせないように。

理想は全員が企業等とつながってほしい。

・新1年

今後はどう進めていけば良いか、現1年の踏襲で良いかを委員の皆さんにお伺いしたい。

6 指導・助言（本校の活動について）

OB 氏

単年度の探究では難しい面もあるため、1つの探究テーマを何カ年と引き継いでいけるようにできたらと思う。生徒は先輩の内容を引き継ぐことに遠慮しているように思うので、生徒に提示してみてもどうか。

OF 氏

探究の授業からサークル（有志）活動として切り替えるなど、独立した活動にするのも手段ではないか。そうすることにより時間が取れる。

OA 氏

実践か座学か探究の進め方を考える。座学を嫌がる学生は多いので、やっぱり実践へと持っていき、社会とつながると結果が見える。探究が提案だけではなく、自分事として取り組んでいけるようにしてほしい。

○探究推進部長

探究活動を行う際には、フィールドワークが必要だが、時間がとりにくい。土日は部活動があり、平日に公欠して授業を抜けることは、なかなか全教員の理解は得られない。

OA 氏

姫路飾西高の進路は、特に今の3年生はどのような感じか。

○探究推進委員1

自身のクラスは、ほとんどが共通テストを受験、国公立は総合型などで5人推薦合格、3人は探究（自然科学探究）で実施したことをアピール。県教委企画の東京出張で、進路がどうこうではない、今やりたいことやる方が良いと言われたが、なかなか難しい。

○探究推進委員2

普通科では例年より総合型に出願した生徒は多かった。担任としては志望理由書に探究のことを書けることが文書作成の手助けになったので良かった。

○探究推進部長

探究型の推薦入試が拡大していく中で、外部のコンテストの受賞歴は必要なのか。

OC 氏

探究したことが高校時代に実らなくても、いつかは役に立つのではないかと思う。

OE 氏

きっかけづくり、好きを見つける手段の探究である。結果としてコンテストに参加して受賞することはあるが、それを目標にはしない。

○STEAM 探究科運営委員長

STEAM 探究科の保護者は「探究で進路実現できる」と思っている。保護者の探究活動に対する意識が高い。総合型選抜のことも考える必要がある。ただ興味を見つけ、進学できると考える面もある。

○教頭

進路実現を探究に結び付けていくのは違うのではないかと思う。この探究ができれば進学のことでも上手くいくという様な、本来の探究活動とは異なったものになってしまう恐れがあり、本末転倒である。

OC 氏

①モノ作り ②つち（カメムシ・ダンゴムシ）と触れる、感性のベース ③アート（感性から入っていく対話型鑑賞）などのテーマを与えるといいのではないか。

OG 氏

STEAM 探究科でも今までの SSC のような1人1班のゼミ形式化なのか、1人が数班見るのか、どんなスタイルでやっていくのか。

○STEAM 探究科運営委員長

どれだけやってくれる教員がいるのかというのが問題。やらない教員には、どうするのか。やってもらえないなら少数で担当するしかない。関わってくれる教員を増やしていきたい。

○探究推進部長

教員全体が増えれば、関われる教員も増える。そこは、人事（教員の配当）の問題もあるかと思う。

OF 氏

学校としての方針はどうか？今のコンテストは賞レース化しているので、気にしないほうがいいと思う。経験値を広げてやる、探究することのプロセスが受験につながる。良い発表をさせるだけでなく、最後は失敗でもいい。失敗も経験することで、学ぶ姿勢、スキルを身につけて教員は次のステージに送り出してやることができると考える方がよい。生徒に自主的に考えさせることが大切。

今年の現1年生のゴールが浅いのは、テーマ設定に時間をかけすぎている。最初からいくつかテーマを提示してあげると、考えるスキルを入手しやすいのではないかと。発表して生徒たちがダメだと思ったら、それを検証する時間を大切にする。教員や委員は出会いをたくさん作ってあげることが仕事。費用は PTA や同窓会や保護者をお願いする。または予算は生徒自らクラウドファンディングするような流れがあると面白い。自分の学びの環境は自分たちで作るという気持ちを持たせることが大切。

○指導主事

指導・準備のお礼の後、姫路飾西は来年度で文科省の普通科改革の最終年度になるが、他事業の予算も活用しながら、本事業の活動を継続してほしい。学校として、走り続けながらこの探究活動をやってきたと思うので、1年の取り組みの検証をしっかり行い、来年度に活かしてもらいたい。

評価のための、ルーブリックの作成をしてほしい。

探究活動のゴールを明確にすること。発表がゴール・目的ではないという根本が変わらないようにしてもらいたい。

探究を真剣に実施している学校は、進路決定が早くなる傾向があるようなので、教員がそれを信じる必要がある。

紙管ミュージアムは実現可能ですか？→会社の構想の一部にはなるかなと思う（該当委員）

他校では、電気ウナギの再生可能エネルギーやがん細胞からエネルギーなど、生徒ならではのアイデアが出ている。突拍子もないアイデアが出てきたときに、生徒に支援をできるように、教員の指導力をあげる必要がある。

探究のフィールドワークに関しては、時間割の工夫等で、外部に出やすくなるのではないかと。と思う。

個性をもった生徒・人材を伸ばせるような仕組みが必要である。貴校は、推薦入試の志願者も多く人気がある。ワクワクしている生徒のために頑張っていたきたい。

7 学校長から挨拶

この会議にも、多くの時間をかけていただきありがたい。それが飾西高校の原動力になっている。

来年度は入学生が6クラスに増え、単位制にもなり、教員数も増える。教員の多様性が良い方向に作用してほしい。

探究でも多様性がキーワードになっている。相手を受け入れる姿勢などの探究の学びの姿勢が、生徒も教員もこれからの教育現場に必要不可欠になる。過渡期だから生徒も教員もバラバラなところもあるが、今後一体になっていくために探究活動を続けていくので、今後も委員の皆様には変わらずご支援をお願いしたい。

なお、コンソーシアム委員会は欠席されたが、兵庫県立大学環境人間学部教授の宇野氏には、探究成果発表会を見ていただき、各発表に対する丁寧なご助言をいただいた。



1 令和5年度「総合的な探究の時間」振り返りアンケート

【2年(39回生)・3年(38回生)の昨年1年間の取り組みについて(2024年4月実施)】

Q1. 昨年1年間の探究学習は、想像していたものと比べると楽しく活動できたか？

- ① 100～80% ② 80～60% ③ 60～40% ④ 40～20% ⑤ 20～0%

	①	②	③	④	⑤
2年(39回生)	32%	40.5%	19%	8%	0.5%
3年(38回生)	24%	45%	21%	7%	3%

Q2. 1年間の探究活動は満足できるものであったか？

- ① 100～80% ② 80～60% ③ 60～40% ④ 40～20% ⑤ 20～0%

	①	②	③	④	⑤
2年(39回生)	25%	44%	20%	9%	2%
3年(38回生)	26%	39%	23%	8%	4%

Q3. 探究学習の中で、タブレットの使用能力(プレゼンテーション作成能力)が向上したか？

- ① 大きく向上した ② 少し向上した ③ あまり向上しなかった ④ 向上しなかった

	①	②	③	④
2年(39回生)	29%	60%	10%	1%
3年(38回生)	34%	57%	6%	3%

Q4. 探究学習において、他人に向けて発表する能力(プレゼンテーション発表能力)が向上したか？

- ① 大きく向上した ② 少し向上した ③ あまり向上しなかった ④ 向上しなかった

	①	②	③	④
2年(39回生)	33%	54.5%	11%	1.5%
3年(38回生)	37%	55%	5%	3%

Q5. 探究活動を通して、コミュニケーション能力(対話したり議論したりする能力)が向上したか？

- ① 大きく向上した ② 少し向上した ③ あまり向上しなかった ④ 向上しなかった

	①	②	③	④
2年(39回生)	40%	47%	11%	2%
3年(38回生)	31%	60%	6%	3%

Q6. 探究の学びが、自分の進路選択や将来を考えることにつながったか？

- ① 大きくつながった ② 少しつながった ③ あまりつながらなかった ④ つながらなかった

	①	②	③	④
2年(39回生)	11%	52%	30%	7%
3年(38回生)	9%	48%	32%	11%

Q7. 探究学習を行うことは、何らかの面で自分の役に立ったと思うか？

- ① 大に思う ② 少し思う ③ あまり思わない ④ 思わない

	①	②	③	④
2年(39回生)	34%	57%	6%	3%
3年(38回生)	26%	63%	8%	3%

Q8. 探究活動を行ったことで、将来、社会の課題解決や、新たな価値やシステムの創造などより良い社会の実現に関わっていきたいと感じたか？

- ① 大に思う ② 少し思う ③ あまり思わない ④ 思わない

	①	②	③	④
2年(39回生)	28%	55%	15%	2%
3年(38回生)	24%	48%	24%	4%

Q9.自由記述(総合的な探究の時間について思うこと)

【2年(39回生)】

- ・課題についてグループで話し合ったり、疑問を交わしたりすることで解決策が少しずつ見えてきました。一人で黙々と深めていくこともいいですが、やはりグループで意見を交わしながら深めていくことができて良かったです。
- ・自分が興味のあることについて詳しく調べ、新しく何かを知ることができて楽しかったです。自分で疑問を見つけ、解決方法を考えることはあまり得意ではなかったけど、探究活動を通して少し成長出来たと思います。プレゼンテーションの作成能力も向上したと思います。情報を整理・分析し自分の考えをまとめて発表する機会はこれから多くあるので、探究活動で学んだことや身につけた能力を活かしていきたいです。
- ・探究の時間は課題から解決まで自分たちで進め、主体的に取り組むものだったため、やりにくさを感じました。やりにくさに対してどう対処するのかの答えは、はっきりとは見つけられなかったのですが、それを感じられて良かったと思います。
- ・テーマを決めるまでが大変ですが、決まった後は話し合うことが楽しくてあっという間に50分が過ぎました。2年生では1年生の経験も踏まえてより深く物事を考えたいです。
- ・実際に自分が思っていることを口に出して説明することが苦手なのですが、探究活動を通して、苦手を克服しつつあり、自分にとって有意義な時間となっています。
- ・データを取り、分析したりすることは普段の授業だけではできないので探究活動を通していろいろ学ぶことができた。
- ・教科の授業と違って、自分たちで選んだテーマをグループで探究することが楽しかったです。最初話したことがない人ばかりで不安でしたが、少しずつ話し合っていくうちに自分では思いつかない意見が出てきて、今まで関わったことがない人だからこそ聞けた意見だと思いました。様々な視点から物事を考えることができ、話し合いの楽しさと重要性を感じました。探究の時間は自分に大切なことを教えてくれたり、想像力などの能力を向上することができたりと、とても楽しく有意義な時間です。
- ・アクリエの発表では大きな会場で聞く側として参加しとても良い経験になりました。もっと質問が増えれば良いなと思います。社会に出た時にすぐ役立つことばかりだと思うので、これからも続けていきたいです。
- ・時間に余裕がありませんでした。発表の機会が少なく、自分の納得できる完成度まで到達することが出来ませんでした。方向性がなかなか決まらず、最終的にも中途半端になっていたと思います。多数派の人達に流されて少数派の意見が考慮もされていなかったり、一部の人が他の人の何倍も頑張っていたりしたので改善が必要だと思いました。

【3年(38回生)】

- ・探究を通じて自分が社会とつながっていることを実感し、社会に役立つようなことができてよかったと思うし、これからも社会に役に立つような人になりたいと思いました。
- ・解決策を導いて実際に実行している班は少なく、調べて終わるだけの人が多かったと思います。
- ・探究内容が難しかったこともあり、時間が足りなかったり、結論を出すことが出来なかったりしたので探究テーマ選びはとても大事だなと感じました。
- ・私は学校案内にARを取り入れようとしていました。時間がなく、実際に学校案内を1から作ることはできませんでした。最後までやり切りたかったなと思います。後輩に受けついで実際に学校案内を作ってほしいなと思いました。
- ・校内でファッションショーを開催することができたり外部でプレゼンできたりと今まで経験したことのないようなことをたくさんできて良かったです。
- ・自分の調べたい内容を探究することで大学での勉強につながってとても良いと思いました。もう少し、外部とつながって協力できたらなと思ったので、他の学校との交流なども行うとよりよくなるかなと思いました。
- ・短い時間で仕上げないといけないこともあったので積極性が身についたと思います。
- ・自分たちが興味あることを自分たちで調べて発表するということは、高校卒業後でも必要になる力だと思うので良いことだと思います。しかし、初めての取り組みが多く、ゴール地点が分からなく戸惑うことが多かったです。
- ・複数人で一つのテーマや目的を決めて、それに向かって全員で協力してその完成を目指すのが面白かったし、様々な面で自分のためになったと思うので、良かったです。
- ・自分がやりたいテーマができないことがあるのは問題だと思いました。全員が自分のやりたいテーマにならないのは仕方ないと思いますが、他の班とテーマが同じにならないように変えないといけなくなるのは大変でした。
- ・スケールが大きい話題よりももっと自分たちで解決できそうなものを探究すれば良かったと思いました。
- ・追い求めていた理想を掴むのはとても言葉には表せないほど難しいものだと感じました。
- ・探究することはいいことだと思いますが、目標を「社会の問題を解決すること」と考えると大変でした。もっとしょうもない問題を真剣に考えてみたかったです。

2 令和7年度に向けたロードマップ

(1) STEAM探究科の今後の歩みについて

【令和6年度 入学生（STEAM 探究科1期生）】

- 「個の活動」から「チームの活動」に展開したい。

1年次の個人を軸とした探究活動を活かし伸ばしてきた「個の力」を、チームでの探究活動に活かすスキルを向上する。

例：1チーム5名程度

教員は2チームを担当し、外部とのコーディネートを積極的に図る。

- STEAMの趣旨を踏まえ、文理の枠を超えた学びを深化する。

文理選択の結果：40名中理系31名、文系9名

現在の大学入試の制度上、文理選択は必要であるが視野を広げる取り組みを充実していきたい。

- 大学や研究機関、企業等とのつながりを拡大したい。

より高い専門性と触れる機会を増やすことで、学びの意欲向上を図りたい。

京都大学 ELCAS や大阪大学 SEEDS プログラム、種々のコンテスト等、進路意識向上にもつながるような校外プログラムへの参加も促進させたい。

- STEAM探究科の特徴を、ハード&ソフト両面において今以上の環境を整える。

最新機器を扱った探究やプログラミングのスキル向上を図る。

- 学力面だけでなく、リーダーシップの育成を図る。

学校生活の様々な場面において、積極的に取り組む意識を持ち、発言には自信と責任が大切であることを自覚する。

- 1年間の探究活動の「ゴール」イメージを、教員で共有する。

すべての発表を、次への学びにつなげることが、教員の主たる役割であることを理解し合う。

「良い発表」のために指導の手を入れるのではなく、到達した「結果」から学びのプロセスを検証し、成果と課題を見つけることをサポートすることが教員としてのゴールであることを徹底する。

そのために、2・3月に「自身の探究を検証する時間」を設定する。

【令和7年度 入学生（STEAM 探究科2期生）】

- 『STEAM探究基礎』の更なる充実を図る。

1学期にSTEAMの意義の理解を図り、学びへの姿勢の軸をつくる。

- 1年次のカリキュラムの主軸を明確にし、プログラムを構成する。

テーマ設定に時間をかけるのではなく、テーマの本質を見抜き、アプローチの視点や方法、整理等のスキルを磨く。また、聞く力、質問する力の育成に力点を置く指導を大切にする。

そのうえで、『STEAM探究基礎』や『English with STEAM I』の中で、多くの発表機会を設け、発表することに慣れる。

- 本校のプログラムの特徴を理解し、3年間での活用をイメージする。

- 一步「外」に出る積極的な姿勢が大切であることを意識する。

(2) 普通科探究活動について

【総合的な探究の時間】

○各学年の目標と活動を明確にする。

1年：講演会等を通じて自分の在りたい未来を創造する力を育み、身近なことを探究テーマとして活動する。

2年：1年での探究活動を活かして、オリジナルな提案をテーマに探究活動を深化する。

両学年ともに共通：グループ分け、テーマ設定に時間を費やさず、「問いを立てる」という本来の探究活動の狙いに重点をおく。

○学校全体の組織として探究活動を展開する。

教員：全員が何らかの探究活動に関わる（STEAM 探究科も含む）。

教員のスキル向上のため、職員会議後に職員研修を行う。

探究委員会を実施し、探究推進部と学年の意思疎通を図る。

生徒：今年度採用された、「探究部」（生徒全員が所属）と「探究委員」（クラス2名）の活用を活発にする。

(3) 広報について

STEAM探究科については、倍率も高く、中学生や保護者に認知されてきたと感じる。一方で、普通科の特色が弱く見えているので、アピールポイント（学校全体での STEAM 教育の取組等）を増やすことが課題である。

(4) 外部との連携について

○コンソーシアム、運営指導委員のご協力で、広がりを見せている。特に COPLI（地域 ICT 推進協議会）に参加することで紹介していただける企業等が増えている。

○外部機関との連携は、本校の強みであるので、文科省の指定が終了した後も協力いただけるような枠組みの構築に着手する。

例：PTAや同窓会の理解と支援を継続、発展のために、報告及び相談を密にする。

協力企業への定期的なコンタクトの機会を「形」にする。等

1 令和7年度入学生（41回生）教育課程 多様な学び対応(案)

兵庫県立姫路飾西高等学校
Ver. 202409-1

1 年 次

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
STEAM（単位制）	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	◇English with STEAMⅠ	情報Ⅰ	探究基礎	LHR	探究基礎																
普通（単位制）	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間		1	1															

2 年 次

第 1 学年																	第 2 学年			第 3 学年			第 4 学年			第 5 学年			第 6 学年			第 7 学年			第 8 学年			第 9 学年			第 10 学年			第 11 学年			第 12 学年			第 13 学年			第 14 学年			第 15 学年			第 16 学年			第 17 学年			第 18 学年			第 19 学年			第 20 学年			第 21 学年			第 22 学年			第 23 学年			第 24 学年			第 25 学年			第 26 学年			第 27 学年			第 28 学年			第 29 学年			第 30 学年			第 31 学年			第 32 学年			第 33 学年		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33																																																																																
STEAM（単位制）	論理 国語	古典 探究	地理 総合	数学 B	数学 C	化学 基礎	体育	保健	家庭 基礎	English with STEAM Ⅱ	数学Ⅱα	数学Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ A	日本史探究 世界史探究 物理 生物	数Ⅱβ(1) or 数Ⅲ(1) + 英コⅡ B(1)	文系国語 2年理系化学 ②アド バンス① ③アドバ ンス with STEAM* ④地域探究	探究Ⅰ	STEAM	L H R	1	1																																																																																											
普通（単位制）	論理 国語	古典 探究	地理 総合	数学 B	数学 C	化学 基礎	体育	保健	家庭 基礎	論理・ 表現Ⅱ	数学Ⅱα	数学Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ A	数Ⅱβ(1) or 数Ⅲ(1) + 英コⅡ B(1)	文系国語 2年理系化学 情報Ⅱ ④地域探究	総合的な 探究の時間	1	1																																																																																														

3 年 次

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
STEAM（単位制）	論理国語A	古典探究A	体育	Global Issues*	英語コミュニケーションⅢA	日本史探究	世界史探究	政治経済倫理	◎数学探究B	英コミⅢB	論理国語B	◎生物探究(2) ◎化学探究(2) 国語表現(2) ◎Extensive Reading*(2) のうち2科目選択	◎数学探究A	◎日本史研究	◎世界史研究	情報探究A	文系国語 ②アドバンス with STEAM* (3年) フードデザイン (3年理系)数B + 理系コミⅢB ④地域探究	STEAM探究Ⅱ	L	H	R	1										
普通（単位制）	論理国語A	古典探究A	体育	論理・表現Ⅲ	英語コミュニケーションⅢA	日本史探究	世界史探究	政治経済倫理	◎数学探究B	英コミⅢB	論理国語B	◎生物探究(2) ◎化学探究(2) 国語表現(2) ◎Extensive Reading*(2) のうち2科目選択	◎数学探究A	◎日本史研究	◎世界史研究	文系数学Ⅱ 理系数学Ⅱ 古典探究Ⅱ	文系国語 ②アドバンス with STEAM* (3年) フードデザイン (3年理系)数B + 理系コミⅢB ④地域探究	総合的な探究の時間	1													

☆・・・専門教育に関する科目

◎・・・学校設定科目

◇・・・学校設定教科

*・・・STEAM探究科対象科目

... 年次横断選択科目
... 必修教科目
... 探究活動に特化した科目
... 選択科目

探究活動に力を入れる姫路師範西高校（姫路市飾西）の1、2年生約40人。同校は昨年4月、文系や理系の枠にとらわれず学ぶ「STEAM（スティーム）探究科」を新設。発表会には、同科や普通科、国際文化系のコースと自然科学系のコースで学ぶ全1、2年生が参加した。

STEAM探究科の1年生は昨年8月にシンガポール国立大を訪れ、現地の大学生と環境問題について英語で議論した様子などを報告。米谷紙管製造（たつの市）との連携授業で着想を得た「紙管ミュージアム」の事業案なども発表した。

学食の赤字解消に挑戦したサイエンス・サーベイ・コース2年生の井原京楓さん（17）は、昨年11月12月に黒字化を達成したと報告した。「限定メニューとして出したピザは好評だったが、量が少ないという意見もあった」「昼休みの営業は黒字化できたが、放課後は赤字のまま」といった課題にも触れ、プロジェクトを継ぐ有志を募った。（真鍋 愛）

令和 6 年度 文部科学省指定事業
「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」実施報告書
— 第 2 年次 —

発行日 令和 7 年 3 月 7 日

発行者 兵庫県立姫路飾西高等学校

〒671-2216

兵庫県姫路市飾西148番地の2

TEL 079-266-5355

FAX 079-266-5354

H P <https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/shikisai-hs/NC3/>



